

その深い溝に、自ら身を投げた人々の住み交い、危険が常につきまとう。この深い溝、この深い溝、この深い溝、それこそ死にもくらくらして

危険と同居の 毎日はおうたくさん 大野大橋に 早く歩道橋を

一枚のはがきから

新設されるものの歩道橋はまだ当分先に?

道路東側に歩道が

「歩行者にとって、危険がいっぱいの大野大橋に、早く歩道橋をつけて……」と、市長へ一通のはがきが寄せられました。そこで私たち広報広聴係では、このはがきをもとに、レポートしてみました。

大通団地に住む主婦から出されたこのはがきは、市政への意見や要望、苦情などを、みなさんからお聞きするために、五月十五日号の広報で、各家庭に配布した「はがきで市長と話そう」のなかの一枚です。はがきの内容を一部紹介します。

前略 歩行者保護のため、大野大橋に信濃川大橋のような歩道橋をつけてください。国道八号線のため、大型車がひっきりなしに走っています。買い物に行く主婦、塾へ通う小学生など本当に恐怖。風の強い日、雨の日など、危険がいっぱいです。黒崎町当局とも話し合い、新潟博覧会の開催の時期にあわせて造ってください。歩車分離の大橋に期待します。死傷者の出ないうちに人間優先の施策を、実現可能か回答をお願いします。

このはがきに対して、市長から次のような回答が出されました。同時に歩道橋を建設する予定でした。

「ご提言のありました国道八号線大野大橋の歩道は、その必要性を痛感しており、黒崎町とともに毎年国に対して、実現に向けて強くお願いしているところであります。国においても、これら実情を

理解され、大野大橋の歩道部分も含めた拡幅整備の基本計画を策定されましたが、この下を流れる中の口川の改修計画などとも関連があり、現時点では具体化にいたっていません。

しかしながら、歩行者の安全を確保するため、当面、現在の橋に幅一・五メートル、橋から白根方面にむかって、博覧会場となる地点までの歩道のない部分には、幅二・五メートルの歩道を、今年から来年の六月ころまで設置するという事です。

市では、今後も大野大橋の拡幅、交通安全施設整備が、一日も早く実現できるよう努力しますので、ご理解とご協力をお願いいたします」

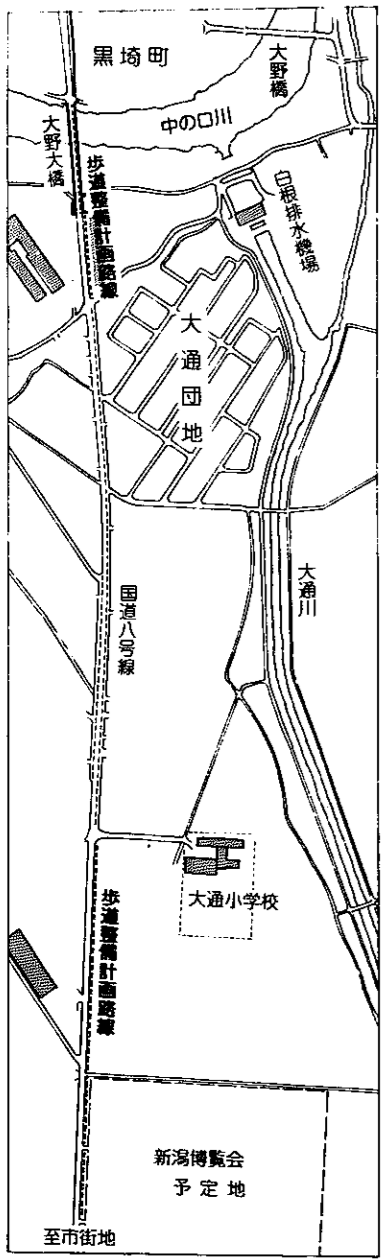
毎年くりかえされ
ている悲痛な願い

この「大野大橋に歩道橋」という要望は、「はがきで市長と話そう」を通して、毎年、一通は必ず寄せられていました。今年も、大通団地の主婦からはがきが寄せられ、市長から前述の回答が本人あてに郵送されました。

毎年毎年、悲痛な願いがくりかえされていることから、広報広聴係は、このはがきをもとに取材を開始したわけです。

橋は団地生活には 欠かせない大動脈

昭和十九年一月に国道八号線が、市内を縦断して開通。純農村地域であった下郷の本と下郷付近の国道沿線は工場や店舗が進出してきました。昭和五十年ころからは、新潟市のベッドタウンとして、大通団地が造成され、現在も団地造成が盛んです。昭和五十四年四月に大通小学校が開校したことによ



道路東側に歩道新設 博覧会場まで延長

建設省の黒崎維持出張所の話によると、黒崎地内の四車線拡幅計画は、当初大野大橋までだ

願いは、消えてはいません。

気軽にお聞かせください。



建設省北陸地方建設局
新潟国道工事事務所
黒崎維持出張所長
坂 登さん



小野恵美子さん
(大通団地・主婦)

高校へ電車通学する娘と、私は毎日のように大野大橋を歩いて渡っていますが、初めのころは怖くて橋の上で動けなくなつたほど。そろばん塾に通う子供には、下流にある鷺の木桜町の大通団地まで戻さなければいけません。冬道は歩く場所もなく、トラックのしぶきをあびて、こわくわくしているんです。歩道橋設置は、団地周辺に住むみなさんの切実な願いなんです。

住民のみならず、歩道橋建設を強く要望されていることは十分に理解しています。

当初は大野大橋までだった四車線計画が、ようやく白根市まで延長されたものの、今度は下を流れる中の口川の改修のめどがたないというは、工事に入れない状況です。

当分の間は、拡幅する歩道をご利用ください。なお、この問題も含め、道路の苦情は何でも気軽にお聞かせください。